

Topics of Kyoto City Zoo

観覧車が市の指定有形文化財に指定されました。

令和5年3月31日、京都市動物園で世代を超えて親しまれている観覧車（日本科学遊園株式会社）が京都市指定有形文化財（建造物）に指定されました。この観覧車は昭和31年7月に比叡山で開催された「叡山納涼パラダイス」で使用されたものが、イベント終了後動物園に移築されたものです。全長12mと当時としては大型の観覧車で、岡崎一帯の景色を一望できることから、来園者の人気を博しました。国内で稼働する観覧車としては、全国で2番目に歴史があり、今ではそのレトロな外観も魅力です。今回の文化財指定では、戦後復興期の鋼材を加工する技術が確立する前に作られた観覧車であることや、眺望を楽しむ観覧車が法勝寺八角九重塔跡に立地し、動物園の戦後復興の一助になったことが岡崎の歴史性・重層性を示す象徴的なものとして評価されました。

※平安時代、法勝寺に建立された高さ約80メートルの塔（現存する日本最大の木造の塔は東寺の五重塔（高さ約55メートル））



観覧車は昭和の時代から、動物園と市民のみなさまを変わらず見守り続けています。



動物園のほぼ中央に位置する観覧車。子どもの頃に一度は乗った思い出を持つ方も多く、市民の財産となっています。

From abroad

世界動物園水族館協会 (World Association of Zoos and Aquariums: WAZA) 年次総会に参加して



(上) ホストを務めたテネリフェ島の動物園、ロロ・バルケのヴォルフガング・キースリング社長による歓迎の挨拶と、(下) 村田浩一日本動物園水族館協会会長（よこはま動物園ズーラシア園長）による「違法な野生動物取引と闘う動物園・水族館」についての講演。

第77回WAZA年次大会は、2022年10月23日から27日まで、スペイン領カナリア諸島のテネリフェ島で開催されました。3年ぶりのリアル開催、世界各地から41の国と地域を代表する186名の会員と32名の非会員が集い、テネリフェ島の動物園、ロロ・バルケがホスト役を務めました。WAZAが優先的に取り組むべき動物福祉や野生動物の保全、持続可能な社会の実現に関わる多岐に渡る発表ははとて刺激になりました。ロロ・バルケ（ホスト園）の施設見学にも参加しました。鳥類のコレクションが素晴らしく、園内にはマックス・ブランク研究所の付属施設が設けられ、鳥類の認知機能についての研究が公開で実施されていました。研究施設を案内してくれた女性研究者が、シャチのショーの際に自分の赤ちゃんを抱いて解説してくれていたのが印象的でした。



会場となったホテルポタニコから見た街並み。



ロロ・バルケのゴリラの展示。ヨーロッパ全体での繁殖を進めるため、余剰となるオスだけを飼育。



鳥類のコレクションが充実しているロロ・バルケの繁殖施設の見学。



事務の仕事内容は実は多岐にわたりますが、動物園ならではの経験ができて嬉しいです！

05

ちなみに私は、鳥が大好き！

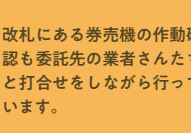
総務課 八田 希美

京都市動物園で働く

総務課の仕事は、日々変わりゆく状況に対応するために欠かせない役割を担っている、言わば「園（緑）の下の力持ち」！業務内容は、動物のエサや山砂をはじめとした物品の調達や入園料の収入などを処理する計理事務、職員が安心して働けるように職場環境を整える労務、施設の修繕、広報、関わっていただく業者さんとの打ち合わせ、寄付の受納などの様々な事務や調整を行っています。直接動物たちと関わる機会はほぼありませんが、安全で楽しく居心地の良い動物園の運営のために、見えないところで貢献できる、やりがいのある仕事です！



↑私のメイン業務は計理です。予算の執行状況確認や入園料の収入等を行っています。



改札にある券売機の作動確認も委託先の業者さんたちと打合せをしながら行っています。

来て見て、会って！ 個体紹介

フェネック「テレ吉」(♂)

令和4年11月1日に狭山市立智光山公園こども動物園から来園しました。とても警戒心が強いですが、ゆっくりり少しずつ当園での生活にも慣れて元気に過ごしています。夜行性のため昼間はよく眠っており、寒い時期はペットヒーターの上がお気に入りです。担当者を見かけると走り寄ってくることも。夜は活発に巣穴を掘っています。



大きな耳
とつとききかき
甲高い鳴き声
イヌ科最小
毛がふさふさ
穴掘り名人
屋間はすやすや

あのね！ どうして！？

動物園にある「御意見箱」に寄せられた動物の不思議についてお答えします。

Q いつも、ゲンタロウが走って窓ガラスを叩きに来ます。遊んでいるのでしょうか？

A 誇示行動（ディスプレイ）の一つだと考えています。いろいろと推測されますが、自分の力を見せるため、窓ガラスを叩いた時の来園者の反応が楽しい、遊びかけている等が考えられます。



↑「ガラス、ドンドン」中のゲンタロウ。体つきががっしりして、大人っぽくなりました。



おいしい木の葉を食べてほっこり。最近はお父さんと遊ぶ姿を見ることは少なくなりましたが弟のキンタロウとはよく遊んでいます。

※SDGs(持続可能な開発目標)とは 2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標です。
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/about/index.html>

SDGs に関する取組 「陸の豊かさを守ろう」 種の保存の取組



アジアゾウの飼育下繁殖に、ラオスとの国際協力のもとで挑戦しており、現在は冬美トンクン(♀)と秋都トンカム(♂)での同居を進めています。秋都トンカムも10歳を過ぎてから日増しにオスらしい行動が増え、冬美トンクンへのマウントも数多くみられています。次回の同居では交尾の成立が確認できることを期待しています。



↑血中のホルモン動態を調べることで、排卵時期の予測や妊娠の有無を確認することができます。

約100日周期で訪れる排卵時期にのみオスとメスを同居させ、野生下の状況に近い形で繁殖を目指しています。

生き物でつながる京都の4つの博物館が連携！ きょうと☆いのちかがやく博物館

京都市動物園、京都府立植物園、京都水族館、京都市青少年科学センター、生き物でつながる京都市内の4つの博物館が協力して、いのちの多様性や、さまざまな生き物が暮らせる自然環境の大切さを伝える取組を続けています。

参加しよう！ 2023年2月5日(日)に、コロナ禍で中断していた「科博連サイエンスフェスティバル」に、3年ぶりに出展しました。動物園、植物園、水族館、科学センターに京都市の環境管理課も加わり、ブースを巡る楽しいクイズや工作などのプログラムに、賑わいました。



動物園は、アジアゾウ「トモ」の全身骨格標本の周りで「ゾウクイズ」。